

第12回連続講座『いのち』を考える ～悲しむ人にやさしく寄り添う～ 講師プロフィール（敬称略）

日程	講師	プロフィール
10/11 (火)	柏木 哲夫 (かしわぎ てつお) 淀川キリスト教病院理事長 【演題】 悲しみを支え、悲しみに寄りそう	大阪大学医学部卒業。ワシントン大学留学。淀川キリスト教病院で日本最初のホスピスプログラムをスタート。平成5年大阪大学人間学部教授。平成16年定年退官、金城学院大学元学長・学院長。平成25年より淀川キリスト教病院理事長。平成27年金城学院学院長を退任。日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団理事長、J R西日本あんしん社会財団理事。著書に『使命を生きるということー真のホスピス緩和とケアとがん哲学者外来からのメッセージ』（青海社）など多数。
10/18 (火)	高木 慶子 (たかき よしこ) 上智大学グリーンケア研究所特任所長 【演題】 愛と悲嘆	聖心女子大学文学部心理学科卒業。上智大学神学部修士課程修了。博士(宗教文化)。「生と死を考える会全国協議会」会長、「兵庫・生と死を考える会」会長。援助修道会会員。二十数年来、終末期にある人々のスピリチュアルケア、及び悲嘆にある人々のグリーンケアに携わる一方、学校教育現場で使用できる「生と死の教育」カリキュラムビデオを制作。幅広い分野で全国的にテレビや講演会等で活躍中。著書に『悲しんでいいー大災害とグリーンケア』（NHK出版）、『それでも人は生かされている』（PHP研究所）、『死と向き合う瞬間ーターミナル・ケアの現場から』（学習研究社）、『大切な人を亡くすということ』（PHP研究所）など。
10/25 (火)	小林 玖仁男 (こばやし くにお) 国登録有形文化財「二木屋」主人 【演題】 あの世に逝く力 ～悔いなく自分の人生を完結させるために～	昭和29年埼玉県川口市生まれ。武蔵大学卒。平成10年祖父の家で「二木屋」を始める。平成14年に建物が国の登録有形文化財に登録される。五節句をはじめ季節ごとの室礼が見事。特に、春の雛人形コレクション一般公開や、秋の薪能は有名。著書に『日本の室礼』（求龍堂）、『歳時で楽しむお料理12ヶ月』（扶桑社）、『運のつぼ77』（ワニブックス+新書）など多数。難病にかかり余命宣告を受けた思いをまとめた『あの世に逝く力』（幻冬舎）は、アマゾン売れ筋ランキング「死生観」の部で1位となる。
11/1 (火)	森 清範 (もり せいはん) 清水寺貫主 【演題】 いのちは仏なり	昭和15年京都市東山区清水生まれ。昭和30年清水寺貫主であった大西良慶和上のもと得度、入寺。昭和38年花園大学卒業、真福寺住職。昭和63年清水寺貫主、北法相宗管長就任。平成24年宝性院住職。その他、全国清水寺ネットワーク会議代表、洛陽三十三所観音霊場会会長、文人連盟会長など。著書に『心を活かす』（講談社）、『見える命 見えないいのち』（日本ビジネスプラン）など多数。
11/8 (火)	沼口 諭 (ぬまぐち さとし) 医療法人徳養会 沼口医院 理事長 (真宗大谷派僧侶) 【演題】 医療がささえる命、宗教が向き合ういのち ～在宅医療チームに臨床宗教師を迎えて～	昭和63年岐阜大学医学部医学科卒業後、岐阜大学医学部第一内科入局。平成元年、国立療養所岐阜病院内科勤務、岐阜大学医学部附属病院医員。平成2年沼口医院常勤。平成6年、岐阜大学大学院医学研究科博士課程修了、医学博士、沼口医院院長。医師会活動として、大垣市医師会副会長。診療・研究領域は、消化器（消化管運動、ヘリコバクター・ピロリ感染）、医療におけるICT、地域包括ケア、在宅医療、認知症における連携、緩和ケア、医療と宗教（ビハーラ、臨床宗教師）。宗教活動として、宗教法人真福山徳養寺責任役員、日本臨床宗教師会役員、中部臨床宗教師会顧問、ビハーラ大垣副代表。
11/15 (火)	清水 俊彦 (しみず としひこ) 東京女子医科大学脳神経外科客員教授 【演題】 悲嘆と頭痛	昭和61年日本医科大学医学進学課程卒業後、東京女子医科大学脳神経外科学教室入局。平成4年東京女子医科大学大学院卒業。甲号、医学博士号取得。平成6年日本脳神経外科学会認定医。平成7年米国 National Headache Foundation 認定医。その他、日本頭痛学会幹事や監事等を歴任し、現在は日本頭痛学会代議員、日本頭痛学会認定指導医、全国慢性頭痛友の会（現在休会中）顧問も務めた。平成23年、東京女子医科大学脳神経外科頭痛外来客員教授、獨協医科大学神経内科学講座臨床准教授も兼任。